

# ブック村だより

私を創った本の数々 .....	東山 明子(1)
ぶつくす・なう .....	(4)
『ホワット・イフ？ —野球のボールを光速で投げたらどうなるか』	谷岡 一郎
『戦後史入門』	初谷 勇
『わたしのすきなもの』	下山 晃
『勉強の哲学—来たるべきバカのために』	河辺 純
本学コレクション紹介(35)	
リスト『著作集』③ .....	森岡 邦泰(6)
LSS(図書館学生スタッフ) 活動紹介 .....	(7)
図書館インフォメーション／開館カレンダー .....	(8)

## 私を創った本の数々

公共学部 公共学科 教授 東山 明子

幼い時から身の回りに必ず本があり、小学校低学年時の趣味はすでに読書であった。育った家庭には少年少女世界文学全集といった類から国内外の偉人伝の数々がずらりと並び、テレビ視聴を厳しく制限する親の教育下で唯一自由を許されたのは、気の向くままに本を読んで過ごすことであり、幼少時の夜の習慣となった。小学校後半頃、推理小説にはまった。横溝正史やアガサ・クリスティーばかり読んでいて、偏り過ぎだと心配した親が教師に相談し、もっと子どもらしい本を読むようにと『動物会議』(岩波書店,1962年)などを薦められたが、刺激が足りず面白くないと感じるかわいげのな

い子どもであった。

中学生になった頃から詩集も好んで読むようになった。高村光太郎、萩原朔太郎、与謝野晶子、石川啄木、北原白秋など片っ端から繰り返し繰り返し読んだ。何の影響からだったのかと振り返ると、どうやら国語の教科書での出会いからであったような気がする。多感な時期に心を豊かにする文学に触れる機会を与えられた当時の教育は今となっては得難いのではないか、ありがたい時代に育ったことに感謝したい。中学高校時代は自分でも心象風景を詩に詠み友人たちにも書かせて学園祭でガリ版刷りの詩集を毎年販売したりもした。先生たちに

も売りつけていたが、今思えば厚顔極まりない。金子みすゞの詩はどれももうら寂しく、我が身を振り返って人間の業のようなものを感じてしまう。『私の前にある鍋とお釜と燃える火と』の石垣りんなど、女性詩人の作品を読み漁る中で出会った茨城のり子の詩は、自立にもがいていた青春期の道標となった。「自分の感受性ぐらい」の最後の一節「自分の感受性ぐらい 自分で守れ ばかものよ」はズシリと心に響いた。「倚りかからず」の後半部分も震えるほどにかっこいい。「じぶんの耳目 じぶんの二本足のみで立っていて なに不都合のことやある 倚りかかるとすれば それは 椅子の背もたれだけ」。群れない、属さない、他者を頼みとしない、せめて気持ちだけでも凜としていたい、と強く思わせてくれた。「人」という漢字は、人が人を互いに支え合っている形ではなく、人が一人で自立している象形文字であるという白川静博士の学説に大きな共感を覚えたのも、その頃だったかと思う。詩を読む際には、声には出さず目で読むのであるが、脳内では自分なりのイントネーションや間合いで自分なりの音声がかかっている。それが自分なりの解釈のあらわれであることに気づいたのは、高村光太郎の「レモン哀歌」を大学合唱部で指揮者として練習していた時であった。作曲家の解釈であるリズムや音色に自分とは別の新たな詩の読み方を示され興味深かった。詩は音に出してこそ命が宿ると強く感じ、音読の重要性に気づいた。

太宰治、芥川龍之介、三島由紀夫などの小説も乱読し、没頭した。背伸びをしたい中学生時代に、例えば「太宰を読んでいる自分」といった類が好きだったのかもしれない。田邊聖子は人間関係の機微を軽妙に教えてくれた。宗教というものとは距離をと

りたいと常々思っているのがあったが、遠藤周作の作品には大いに心を揺さぶられた。内容はもちろんであるが、心に響く要因の一つとして「方言」の存在に気づかせてくれ、私自身の「関西弁、奈良弁」を大事にしたいと思うようになった。サマセット・モームはストーリーテラーといわれているが、大事な面接を受けに行く電車の中で『人間の絆』（モーム作、行方昭夫訳 岩波文庫、2001年）を読みふけり、危うく降車駅を乗り過ごしてしまいそうになり、その危険さゆえにさらに印象強い作家となった。

残念ながら大学生頃からは多忙さの中で、心の赴くままに本を読み漁るといふ行為がいつの間にか消滅し、勉強や研究に必要な本を読む、という心貧しくさもしい方向に向かい、今日まで至ってしまっている。その中でも特に次の数冊を紹介したい。



大学時代から幼児の運動調整力の発達に興味を持ち、卒業論文だけでは納得できず大学院修士課程でも研究したのだが、その程度ではまだわからないことだらけで気持ちが悪かった。ちょうどある県のスポーツ科学委員会の心理学班班長として関わる中で脳研究につながる縁を得た。脳内の神経伝達経路の研究のために私がそれまで研究対象としていた生身の人間ではなくラットの脳を血まみれの手で扱いつつ、脳って何？ どうなってるの？ と探し回り、『脳ってすごい！』（ロバート・オースティン、リチャード・F・トムソン著 草思社、1993年）に行きついた。生理学的知識ほぼゼロの私には小難しい学術書を読み解くにはハードルが高すぎたのであるが、この本は絵入りでしかもずいぶん平易なことばで書かれていて興味を持っ

て読み進められた。最初からきちんと決められているかのように学んできた脳各部の働きは、すべてが先天的に決定付けられているものではなく、たとえば目が見えない、とか、耳が聞こえない、等であれば、本来なら視覚や聴覚中枢であるべき部位がそれに代わる別機能を有する、つまり欠けている機能の本来の場所は「空き部屋」ではなくその部屋に別機能が入ってくる、というような説明が、簡単に言えば、障碍とは機能のマイナスではなく、別機能のプラスである、という理解となり、私の心にヒトの機能の複雑さ不思議さを強く印象付け、人知を超えたモノへの畏敬の念を抱かせた。『マンガ 脳科学入門』（アングス・ゲラトゥリ著 講談社、2001年）も同様に分かりやすく、しかもブルーバックで小さく薄いので電車内でパラパラと開いて読むのに最適である。

スポーツ心理学という学問分野に生きるうえで、人を育てることに興味があった私は自然な流れでメンタルトレーニングの世界に入っていったのであるが、リラクゼーションや注意集中を研究する中で「笑い」の生理心理的效果に興味を持った。努力が苦手な私にとって、いかに楽をして最高のパフォーマンスを発揮するか、が研究課題となった。ノーマン・カズンズ著『笑いと治癒力』（岩波書店、1996年）は、死ぬまで手元に置きたい一冊となった。著者のノーマン・カズンズ氏の人生にも興味が湧き、広島平和記念公園の石碑に会いに行ったりもした。人柄と作品に惹かれてと言えば、車谷長吉も外せない。代表作の「鹽壺の匙」をはじめとして、人間のネガティブな部分を隠すことなく人間臭さに塗れて生きること共感し安堵すると同時に何とも言い難い読後感が霞のように消えずに残り、また読み

たくなる不思議がある。

こうして本との関わりを振り返ると、「読む」というヒト特有の道具を何の脈絡もなく使い散らかしてきた印象であるが、私の信条である「人生に無駄はなことは何一つない。経験はすべてプラスになる」の通り、目を通し心を動かした数々の本が今の私を創ってきたのだと感じる。最後に、絵本『ひとあしひとあし』（レオ・レオニ作 好学社、1975年）は、しゃくとりむしが生き延びるために様々なものを測定するのであるが、無理難題を押し付けられた時に、拒否ではなく受け入れるかのように振舞いながら、逃げる話である。困難な状況の中で、必ずしも正面から立ち向かうのが正しい、というわけではなく、逃げていいのだ、逃げるのも一つの選択肢だ、と教えてくれた貴重な人生教本である。



『茨木のり子詩集；  
谷川俊太郎選』  
(岩波文庫、2014年)

請求記号:911.56/111  
登録番号:0496945



『笑いと治癒力』  
(岩波書店、1996年)  
ノーマン・カズンズ著  
松田銃訳

請求記号:493.14/C89  
登録番号:0261042

## 『ホワット・イフ?—野球のボールを光速で投げたらどうなるか』

単行本(早川書房,2015.6)文庫本(早川書房,2019.12)  
 ランドール・マンロー 著 (単行本)請求記号:404/Mu35  
 吉田三知世 訳 登録番号:0510789

「ステーキを高いところから落として、地上に到達したときにちょうど食べごろに焼けているようにするには、どれくらいの高さから落とす方がいいですか?」とか、「地球にいる人間全員が一斉にレーザー・ポインターを月に向けたら月の色は変わるでしょうか?」といった突拍子のないいくつかの質問に対し、まじめに(科学的に)答え続ける本。自身がNASAのロボット工学者だった知識を活かしつつ、マンガチックな絵の上手さ(?)によってわかりやすく科学の真髄を解説してくれる一冊。ユーモアとウィットに富む文章は味わい深く、すぐに次の章を読んでしまうだろう。試しに「野球のボールを光速の90パーセントの速さで

投げたらどうなるか」とか、「ロンドンからニューヨークまでつなぐ橋をレゴで作ると何ピース必要か」とかを頭の中で考えてみてほしい。「ばかばかしい」と思う人は、すでに子供時代の探究心を失っているのかもしれない。



もともと大きめのサイズで一冊にまとまった本でしたが、昨年ちょうど2冊に文庫化されましたので、お求めやすくなりました。マンローの2冊めはイラスト図鑑、そして2020年には新刊(3冊め)『ハウ・トゥー —バカバカしくて役に立たない暮らしの科学』が出ております。頭がカタクなった人は、3冊とも読みましょう。

(学長 谷岡 一郎)

## 『戦後史入門』

(河出書房新社,2015.7)  
 成田龍一 著

請求記号:210.76/N52  
 登録番号:0510761

今年2020年は、阪神淡路大震災から25年、日本万国博覧会から50年、そして「戦後」75年。震災、万博、戦後。これら三つに関わる身近な記憶や実体験を持つ世代から、それらの出来事を年表に整理された「歴史」のひとつコマとして学ぶ大多数の在学生の皆さんの世代へ、お薦めしたい一冊。

・・・これまで幾度となく「戦後は終わった」と言われながら、「戦後」という意識が相変わらず続いている。「戦後」がいよいよ歴史の過程に入り、あらたな未来として論じられるはずの(いま)、いわば「戦後後」のあたらしい世代、これから生きていく人たちに、納得できる「出発点」を見出してほしい・・・。著者・成田龍一氏(日本女子大学教授)の願いと期

待は、深く、高い。

本書は、2013年に刊行された『戦後日本史の考え方・学び方—歴史って何だろう?』の文庫化だが、2015年に「戦後70年」となるともいわれたことへの著者のとまどいが、増補に記されている。歴史とは、「われわれ」



日本人のアイデンティティを知ることであるとともに、「われわれ」とは異なる「かれら」(さまざまな他者)の歴史を知ることの大切さも強調されている。

戦後25年、冷戦下にあった1970年の夏、大阪・千里の万博会場のコンサートで初めて歌われ、ヒットした曲、「戦争を知らない子どもたち」を聴いてみてほしい。5年後の2025年、「戦後を知らない子どもたち」は、大阪・<sup>ゆめしま</sup>夢洲の万博会場でどんな歌を口ずさむだろうか。(図書館長 初谷 勇)

## 『わたしのすきなもの』

(婦人之友社,2019.2)  
福岡伸一 著請求記号:049/F82  
登録番号:0538198

生理学的に見て、「生ま物」である脳ミソがぴちぴちと元気なのは26歳くらいまでだとか。そしてそのぴちぴち脳ミソを最大限に活用させるには、何よりも、自分が好きなこと・好きなものに集中して興味を注ぎ、わくわく感に形を与えていくことが大切だという。

著者の福岡さんは、若い頃から町角の何でもないような古書店や、よく見れば無限の思いを広げてくれる蝶々や置き物、文具などに尽きない興味を注いで、ぴちぴち脳を60歳を過ぎた現在までフル活動させ、画期的な業績を提示しつづけている。福岡さんが書いた『動的平衡』はこの広報の第37号で前の図書館長の塩田先生が推薦しているが、本書や『動的平衡』に合わせて『ロハスの思考』『生物と無生物

のあいだ』『できそこないの男たち』『世界は分けてもわからない』などの著作もぜひ一読していただきたい。

本書を参考に、自分の好きなものを書き留め整理してゆけば、ものの見方やものへの関わり方が変わってくる筈。福岡さんの柔らかな感受性やものを見る時の切り口、思考のつなぎ方は、きっと若い脳ミソを元気いっぱいのスマートな特上品にしてくれるのです。生き物のかけがえのなさやものにこだわることの大切さを、改めてじっくりと考え出すことになります。ちなみに、評者の下山せんせいが好きなのは、オープンカーと赤ん坊、民族服、そしてタバコが喫えるクラシカルな喫茶店です。m ( ) / 蝶満ちて できそこないの脳が覚め 響太郎 (総合経営学部 教授 下山 晃)



## 『勉強の哲学』

## — 来たるべきバカのために —

(文藝春秋,2017.4)  
千葉雅也 著請求記号:002/C42  
登録番号:0524480

著者は今年1月の芥川賞の候補作家にもなった、時代を代表する若手哲学者の一人である。とりあえず刺激的なサブタイトルであるが、巷に溢れる勉強の指南書とは一線を画している。これまで散々「勉強しろ!本を読め!」と言われてきた人はもちろん、同じセリフを「もう少し説得的に言えないのかなあ」と苦心している人にもお勧めしたい。

本書が目指すのは、受動的な「〇〇のための(手段としての)学び」から、能動的で主体的な学びへの移行である。したがって残念ながら、効率的に資格取得などをを目指す人の期待には応えられない本だろう。筆者はこの過程を、「勉強によってノリが悪くなる、キモくなる、小賢しくなる」(p.169) ことだと表現して

いる。周りのノリに同調している「保守的なバカ」から、深い勉強を通じて、周りから少し(いや、相当)浮いている「来たるべきバカ」を目指せと説く。お行儀良く言い換えると「オリジナルな問題意識を持ち続けろ」と言うことだろう。論文やレポートを書いたり、就職活動において自己分析する際に必ず突き当たるアノ課題である。

前半の「原理編」はやや難解なのでゴシック部分だけを拾い読みし、後半の「実践編」を精読するのも良い。特に実践編で紹介される「欲望年表」は是非作成すべき。歴史の大きな流れに自己の欲望を重ねることで、私だけのテーマ(学ぶべきこと、やるべき仕事)が浮上したら、「来たるべきバカ」の段階も近いかもしれない。(総合経営学部 教授 河辺 純)



## リスト『著作集』③

リストは、まだ教授在職中の1819年4月にフランクフルトの各市で各地の商工業者と会い、「連邦議会への請願書」を頼まれて起草し、「ドイツ商人・工場協会」の法律顧問を引き受けた。これは講義の準備のため多くの時論を読んで、商業問題への関心が高まったためであった。ナポレオンの大陸封鎖のためイギリスから商品が入ってこない間に各地で成長を遂げた工業は、封鎖崩壊後、一方でイギリス製品が洪水のように流入し、他方、フランスもロシアもポーランドもスペインもポルトガルも輸入に高関税を課したので、ばらばらの領邦国家だったドイツは有力な対策をとることができず、苦境に陥っていたのだった。

当時、ドイツにはスミスの経済学が流入し、カントがいたケーニヒスベルク大学ではスミスの著書の翻訳の講義と言われたクラウスの講義が、カントをしのぐほどの人気で、貴族や高級官僚も聴講していた。そして従来の官房学とスミスの経済学を折衷した教科書がたくさん書かれて大学で使われ、大きな影響力を持つようになっていた。リストも例外ではなく、「長年にわたって私は、スミスやセーの忠実な門下生であったばかりでなく、この絶対確実なる学説の熱心な教師でもあった」。しかしイギリスとの貿易の再開で起こった経済危機で「自由な交易」というスミスの経済学に疑問が芽生え、後の主著につながっていくのである。

1819年に大学教授の職を辞したリストは、1820年ロイトリンゲン市会議員(31歳)となったが、反政府活動のため告訴されて、わずか80日間の議

員活動で議会から追放となり、禁固10か月の有罪判決を受けた。そこでリストは、身重の妻と子供を残して、ストラスブルに逃亡した。そこにはメッテルニヒの弾圧から逃れた自由主義者が何人も亡命していたからである。そこでは新聞に寄稿して収入を得ようとしたが、原稿が没になったり、支払いが滞ったりした。さらに旅券のない政治犯のリストは、結局フランスから立ち退くよう命令された。

絶望したリストに、バーゼル大学教授から、スイスのバーゼルへ亡命するようにとの誘いの手紙が届いた。当時バーゼル大学には政治的理由でドイツを追われた学者が大勢集まっていたからである。バーゼル大学で職を得ることを期待していたが、旅券をもたないリストには査証は発行されず、14日間だけ滞在が認められた。スイスに家族を呼び寄せていたリストは、家族ともどもアラウに移った。アラウでは雑誌の発行に加わり、さらに大学に進学できない青年や職業人向けの学校の教師をやった。しかし結局スイスでは道が開けないと悟り、ロンドンかパリか北アメリカ移住を考え、まずロンドンとパリを旅行したが、パリでは文通していた、フランス革命で有名なラファイエット将軍に会うことができた。アラウに戻ると、義兄からの手紙で、ドイツの状況が好転したと思い、ドイツへ帰国した。しかしたちまち拘束されて独房へ収監された。そこで「永久追放」つまり渡米するという条件で牢獄を出て、家族とともにアメリカにわたることになった。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

# 2019年度Library Student Staff(図書館学生スタッフ)活動紹介

## ● 定例ミーティング ●

毎月2回決まった日時に集まり、6階多目的室でミーティングを行っています！

展示やイベントの企画を考えるだけでなく、ポスター作成や図書館内のPOP作成もしています。ただ雑談をする日もあれば、勉強会をすることも…。誰もが自由に意見を言い合えるのがLSSの良さ。どんな意見でもホワイトボードに書き込み、みんなまで共有しています。



## ● 図書館秋フェスティバル ●

10月2日(水)、ジャズの生演奏を図書館で楽しめるイベントを開催しました！

桑島ゼミとのコラボイベントであり、話し合いを重ね実現したイベントです。

当日はなんと40名を超える方々にお越しいただき、大盛況でした！

多目的室では本の展示や映像を流したりと、秋やジャズを感じ取れる雰囲気作りを意識しました。第二弾も開催されるかも！？…ぜひ告知をお待ちください(\*^\_^\*)



## ● 映画上映会 ●

10月26日(土)・27日(日)の御厨祭では映画上映会を行いました！

ハロウィンらしい映画の選定、映画ポスター作成など、全てLSSが企画しました。

ポスターの掲示効果もあってか、当日は学生だけでなく外部からの子供や大人のお客様にも来ていただき、大変盛り上がりました。

映画上映会は特別な時以外にも開催しよう！とひそかに計画しています(^o^)



(文・経営4年/大塚 柚美)

## LSS(図書館学生スタッフ)募集！

図書館では、図書館主催イベントの運営サポートや、より多くの学生が図書館を利用してくれるよう館員と一緒に考え、提案してくれる学生スタッフを募集しています。

本が好きな人はもちろん、図書館の仕事に興味を持った方は、6階カウンターまでぜひお越しください！

一緒に図書館を盛り上げましょう！

<活動内容>

- ・学生選書ツアー、読書会の運営サポート
- ・POP作成、ポスター作成
- ・イベントの企画 など

応募  
待ってるよ~!



# 図書館 インフォメーション INFORMATION

## ◆今度のテーマは？ 図書館おすすめの企画展示

図書館では毎年6～7回、2階フロアで企画展示を実施しています。2019年度は、①マンガで読破！～学習マンガ大集合～（4月）、②2019年ラグビー世界大会開催！（6月）、③本を片手にぶらり電車旅（9月）など7回実施。展示本は、その場で貸出できます。2020年度の企画展示もお楽しみに！

## 「マンガで読破！ 学習マンガ大集合」



## ◆英語力が高まる多読リーダーにチャレンジ！

2階フロアに「多読リーダー」が並ぶコーナーがあるのをご存じですか？多読リーダーは、見出し語200語から始まり、自分のレベルに合わせてたくさん英語の本を読み、ステップアップしていく学習法。今後いろいろな本を増やしていきますので、ぜひ、楽しみながら英語力を身につけてください！



## 展示された学習マンガ選書リストから（抜粋）

タイトル/著者等
人生が変わる哲学の教室：コミック版/小川仁志原作：大月マナマンガ (KADOKAWA, 2016)
マンガでわかる行動経済学：いつも同じ店で食事をしてしまうのは？なぜギャンブラーは自信満々なのか？/ポーボー・ポロダクション著 (SBクリエイティブ, 2014)
大学4年間の経営学がマンガでざっと学べる：学び直しの決定版/高橋伸夫、うだひろえ著 (KADOKAWA, 2018)
幸福について/ショーベンハウアー原作：Teamバンミカス、伊佐義勇まんが（講談社, 2018）
日本人の知らない日本語：なるほど？×爆笑！の日本語*再発見。コミックエッセイ/蛇蔵、海野凧子著（メディアファクトリー, 2009）

## ◆東大阪市立図書館と連携！

本学図書館は、東大阪市立図書館と2007年に覚書を交わし、相互協力関係を築いています。市では、近鉄河内永和駅前への市立永和図書館の新設移転に向けて、昨秋、市内大学生と「新しい永和図書館が大学生・中高生に活用されるには」を考える会」をスタート。本学からはLSSの2名が参加し、活用促進のイベントを多数提案。企画イベントは、今後、新図書館で順次開催されます。

## 2020年度 図書館開館カレンダー

4月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

8:00～22:00 (20:00以降2Fのみ) 9:00～18:00 (2Fのみ) 9:00～18:00 休館日

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開館時間が変更になっています。  
詳細は図書館1階掲示板・館内配布チラシ・図書館ホームページ等をご確認ください。

【編集発行】大阪商業大学図書館

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第52号 令和2年3月31日発行

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

TEL：06-6781-5280

E-mail：lib@oucow.daishodai.ac.jp

URL：https://ouc.daishodai.ac.jp/lib/

QRコードを読み取ると、  
図書館ホームページへ  
アクセスできます。



ISSN 1346-8928